

インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの推進 令和5年度事業報告

日野伸一¹、佐久間智恵²

久留米工業大学学長¹、第一復建株式会社²

概要：九州地方のインフラメンテナンスにおいて、民間企業の多様なシーズに対し、地方自治体のニーズとのマッチングを行い、課題解決策を見出すことが本フォーラムの目的である。本年度は、福岡・宮崎でのピッチイベントや、土木を職業として選択する次世代（高校・高専・大学生）を対象とした啓発活動として市民参加イベントを開催した。また、昨年度に引き続き実務経験豊富なベテラン技術者によるよろず相談「テクシニアーズ」を実施した。これらにより、インフラメンテナンスに関する知名度・理解の向上を図った。

1. はじめに

高度経済成長期に集中的に整備された我が国のインフラは、老朽化が急速に進むことが懸念されており、いかにインフラの維持管理・更新に取り組んでいくかが喫緊の課題となっている。特に、若い世代の人口流出に悩む地方自治体においては、インフラの維持管理を支える建設産業や担い手の確保等、社会的問題として取り組む必要性が求められている。このような背景から、インフラメンテナンスに産官学民が一体となって取り組む体制をつくり課題解決やイノベーション推進を図るプラットフォームとして、平成28年11月にインフラメンテナンス国民会議が設立された。具体的な取り組み目標として、①革新的技術の発掘と社会実装、②企業等の連携の促進、③地方自治体への支援、④インフラメンテナンスの理念の普及、⑤インフラメンテナンスへの市民参画の推進、の5項目が掲げられている。それを受けて、インフラメンテナンス国民会議の公認フォーラムとして、「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」（以下、九州フォーラムと称する）を平成30年1月17日に設立し、現在に至る。本稿では、九州フォーラムの令和5年度における活動状況を報告する。

2. 九州フォーラムの組織体制

九州フォーラムの運営組織構成を図-1に示す。運営体制の構築にあたり、九州フォーラムの活動に熱意とボランティア精神をもった会員を募り、フォーラムリーダー・サブリーダー及び事務局を含む企画運営会議が設置され、現在の企画運営会議のメンバーは、学識経験者のメンバーも含め、61名、38機関で構成されている。九州フォーラムとしての活動を活発に推進するため、企画運営会議の中に、自治体支援、マッチング、広報・市民参画の各ユニットを設けて業務を分担する体制を構築するとともに、国土交通省九州地方整備局と緊密に連携しながら運

営している。

さらに、令和2年4月からは自治体支援の一助となることを目的として、現役を卒業した実務経験豊富な技術者達によるインフラメンテナンスに関するよろず相談窓口として、「テクシニアーズ」¹⁾を新たに設立している。

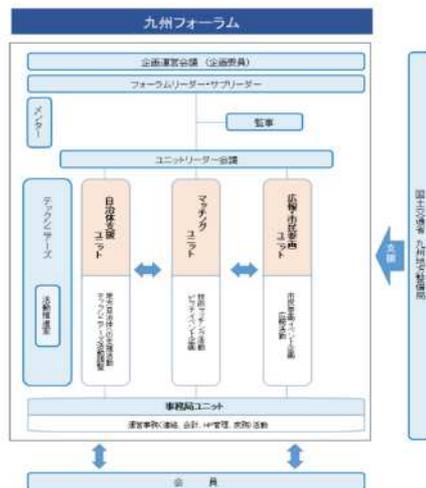


図-1 令和5年度九州フォーラム組織図

九州フォーラムの概要 自治体会員数(2024.4)

○令和6年4月9日時点、参画数=235団体(加入率97.9%)
加入率推移: R5.7[90%] ⇒ R6.1[95%] ⇒ R6.4[98%]

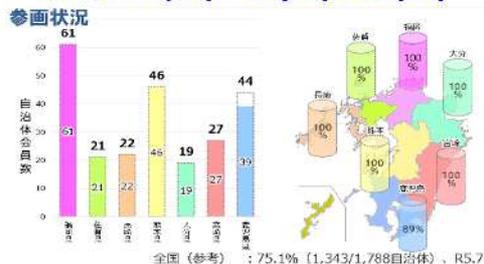


図-2 自治体参画状況 (R6.4時点)

また、本フォーラムへの九州地方の自治体(全240自治体)の参画状況について、参画自治体が増加し、全240自治体中235自治体(令和6年4月9日時点)に到達した。特に、これまでにピッチイベントを実施した大分県、長崎県、宮崎県については、全ての自治体が参画しており、

地方開催のピッチイベントによる効果が確認された。令和6年4月時点の自治体参画状況を図-2に示す。

3. 令和5年度の活動紹介

(1) 第8回ピッチイベントの開催

今年度の九州フォーラムにおけるメインの活動として、令和5年10月12日に福岡市で第8回ピッチイベント「インフラメンテナンスの新たなステージの取組みと未来への継承」を開催した。昨年と同様に「九州建設技術フォーラム2023」と同時開催とした。今年度は地方自治体が抱えるインフラメンテナンスの課題や展望、課題解決に向けた取り組み事例として、地方自治体の取り組み、包括的民間委託や新技術活用について紹介した。第8回ピッチイベント案内を図-3に示す。

はじめに、九州フォーラム企画運営委員 野上氏に「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの活動」と題して、九州フォーラム設立から5年間の活動内容、今後の展開と課題などについて講演いただいた。第1部では、国土交通省総合政策局 金井氏に「インフラメンテナンスにおける包括的民間委託の現状と展望～「地域インフラ群再生戦略マネジメント」の推進に向けて～」、国土交通省道路局 和田氏に「道路施設のメンテナンスに関する話題」と題して、それぞれ基調講演をいただいた。続いて第2部では、「維持管理の未来像と自治体の悩み～包括的民間委託と新技術～」と題して、(一社)ツタワールドボクの福島氏の進行のもと、行政(国土交通省、長崎市、杵築市)、民間(インフロニア・ホールディングス、オービット)の計6名にてパネルディスカッションを行い様々な意見をいただいた。本イベントは昨年引き続きWeb配信併用の開催とし、当日の参加者については会場参加が167名、Web参加が289名という結果であった。今後もWeb配信を積極的に活用し、自治体を含めて多数の参加者を募れるよう取り組んでいく必要がある。

(2) 第9回ピッチイベントの開催

今年度は、地方イベントの第三弾として宮崎県で開催した。県内で収集したニーズに対してマッチング活動を行うことで、地域に根ざした活動を展開した。パネルディスカッションでは、「市町村管理橋梁のメンテナンスの現状と未来へのきざし」と題して、宮崎県内市町村管理橋梁のインフラメンテナンスの課題や今後の在り方について幅広く議論いただいた。



図-3 第8回ピッチイベント案内

(3) テックシニアーズの活動概要

中小規模の地方自治体が取り組む公共インフラ老朽化対策は、実施にあたって、自治体単独では十分な対応が困難な場合が多い。当フォーラムでは組織体制に「自治体支援ユニット」を設け、自治体の課題解決に向けた支援を行うこととしているが、具体の支援活動が十分に実施できていないのが現状である。これらの状況を踏まえ、現役を卒業した実務経験豊富な技術者達が集い、ボランティア活動の一環として地方自治体からの様々な相談に中立的立場で技術アドバイスをを行い、自治体支援の一助となることを目的に「テックシニアーズ」を設立し、令和2年4月1日より活動を開始している。令和5年度の主な活動として、九州7県道路メンテナンス会議技術検討部会地域症例検討会にアドバイザーとして参画し、症例検討会終了後、発表自治体向けに個別よろず相談会を開催した。

4. おわりに

少子高齢化時代を迎え、国および地方自治体の財政状態及び人材不足がますます厳しさを増す中、インフラメンテナンスに対する国民一人一人の理解を得て、産官学民の連携によるインフラマネジメントに取り組むという国民会議の精神がきわめて重要であるということは誰もが認めるところである。是非とも、九州の産官学民の連携をより一層強化し、インフラマネジメントを通じて安全・安心で、豊かな未来を子孫に残せるよう、各位のご理解、ご協力を切望するものである。最後に、九州フォーラムの活動に参加、協力をいただいた企画委員をはじめとする会員の方々、そして公益事業の一環として助成金をご提供いただいた(一社)九州建設技術管理協会、(一社)九州地域づくり協会および(一社)九州地方計画協会に対し、深甚なる謝意を表する次第である。

参考文献

1) 九州フォーラム HP より

<https://www.imkyushu.jp/tec/index.html>